赴任先で息子事故死「救命救急向上を」

AEDをガーナへ

多治見市の多月さん ネットで資金調達

アフリカのガーナで長男を亡くしたのをきっかけに、多治見市の母親が友人らとともに創設したNPO法人「HIROYA基金」が、10月に同国に自動体外式除細動器（AED）を寄贈、メンバー3人が現地で講習会を開き、使用法を指導した。同法人は3日から市内で開くガーナグッズの作品展に合わせ報告を行う。

（松尾法尋）

クラフトショップで展示販売するガーナグッズを手にする多月緑さん
＝多治見市脇之島町

同法人は、2013年10月に同市脇之島町の多月緑さん(62)の長男裕也さん＝当時(30)＝が、勤めていた総合商社の赴任先ガーナで水難事故で死去したのを機に設立された。同国の救命救急の現状を知った多月さんが代表を務め、救命救急の必要性と心肺蘇生法を伝えようと、AEDを寄贈し普及させる活動を続けている。

多月さんらは15年に自費で同国に渡航しAED1台を寄贈。活動を継続するために、東濃信用金庫などの協力を得て今年8、9月に、インターネットを通じて不特定多数の人から資金を募るクラウドファンディングを実施。裕也さんの勤務先だった商社員らの協力もあり、100万円を上回る資金を調達、渡航費に充てた。

多月さんらメンバー3人は10月4～13日に同国に渡航し現地の医療機関を訪ね、2台目のAED寄贈や使用方法の講習などを行った。多月さんは「1台目のAEDで多くの人の命が救われたと今回初めて聞かされた。生前の息子を知っている人にも出会えうれしい」と語った。

作品展は裕也さんの誕生日の3日に合わせて行われ、同市本町のクラフトショップながせ3号館で6日まで開催。ガーナビーズやバスケット、手芸品などの展示販売のほか、随時、報告を行う。

無断複製・転載を禁じます